

表91-1 古事記「序」の暗号解読結果

2009/10/10改訂
2008/10/20 by marishi

区分	年月日	解読結果	解読方法
序1	詔：和銅四年九月十八日(711年)	解読1：神武誕生西暦前711年	①直読ニニギ暦(西暦)711年は前711年を示唆し、日本書紀記載の神武誕生年である。 ②ニニギ暦(西暦)711年は、前711年とシンメトリックを作り、中央がニニギ元年(西暦元年)である。
		解読2：復元時の神武誕生137年	①四年九月十八日は、4918と書ける。 49と18の二桁ごとに分ける→ $4+9=13$ と $8-1=7$ →137年 ②四年九月十八日は、 $4(+)+9+8$ とみる。 $4+9=13$ と $9+8=17$ →13と17は、 $13+7$ →137年 ①と②より、ニニギ暦(西暦)137年は復元時の神武誕生年である。
序2	献上：和銅五年正月廿八日(712年)	解読1：神武即位52歳(実26歳) 復元時の神武即位162年	ニニギ暦(西暦)前712年は神武暦前52年である。 $[-712-(-660)=-52]$ 「52」は神武52歳(実26歳)で即位したことを示唆する。 神武誕生137年、26歳即位で、即位年は162年となる。 $[137+26-1=162]$
		解読2：復元時の神武崩御175年	「52」は神武52年次を示唆する。 日本書紀の神武52年次(前609年)は、神武崩御の年で、復元ではニニギ暦(西暦)175年となる。
		解読3：復元時の神武崩御175年	逆読8、 $2+1(0)=30$ 、 5 →835(神武暦)→175年 $[835-660=175]$
序3	献上：和銅五年正月廿八日(712年) 正五位上勲五等太朝臣安萬侶	解読1：神武即位52歳(実26歳)	正(1)が2個、5が3個→二と十五で、二十五→逆読52 52歳即位を示唆する。
		解読2：復元時の神武崩御175年	廿八日を逆読820年(神武暦)→ $820-660=160$ 年(ニニギ暦) 5が3個、 $5+5+5=15$ 年 正は無視すると、合計175年 $[160+15=175]$
序4	正五位上勲五等太朝臣安萬侶	解読：復元時の神武立太子151年	正→5と5が2個で55、等→十→10 55510 → $10(=5+5)$ 、5、10→ 10510 →(0を無視すると)151 151は、復元時の神武立太子151年である。

注1) 本来であれば、神武暦あるいはニニギ暦で書くところであるが、煩雑になるため、分かりやすく西暦で示している。

注2) 上記解読の中の「神武即位52歳(実26歳)」は、二倍暦を前提としている。古事記の東征の数字から、二倍暦を用いたことが確認できている。

注3) 筆者は、上記の解読のすべてが、古事記の編者が期待した正しい解読であるかを考えると、疑問も残る。

しかし、少なくとも、区分の序1の711年および序2の712年に関する解読結果は、正しいと考える。